

第三セクターへの市の関与方針は徹底検証、見直しを 総務常任委員会で人事改革方針、行政改革推進計画などを審査

総務常任委員会の所管事務調査が20日、行われました。人事改革方針、第7次行政改革推進計画、第4次定員管理計画、第3次財政改革について行政側から説明があり、質疑を行いました。

このうち第7次行政改革推進計画で私は、リフレ上越山里振興(株)の補助金不正受給事件についてふれ、市が2019年2月に定めた「第三セクター等に対する関与方針」の中の「関与の在り方」(人的関与、株主としての適切な対応など8項目)が適正だったかどうか、徹底的に検証し、早急に見直すよう求めました。これに対して八木副市長は、「期限については申し上げられないが、皆さんから納得いただけるような解決策を見出して参りたい」と答えました。

人事改革方針については、職員が元気に頑張れる職場づくりのための課題の1つとして「大声で怒鳴る指導」などハラズメントを根絶するよう訴えました。また、総合事務所職員の在任期間を長くし、地域の人が親しみをもって気軽に立ち寄れるような状況をつくりだすよう求めました。担当部長は、「ハラズメントは根絶していききたい。いくら熱意を持って、いくら正しいことを言っても、大声で怒鳴って指導するということ

はいけないことだ」「市民の方がお求めなのは、地域をよくわかってる人だと思う。短くても、しっかりと地域や、その事業を熟知した職員になってもらいたい。でも、長く対応したいという職員には十分配慮していききたい」などと答えました。

私は、「地域に住む人間から見れば、いつも行く場所に知ってる顔の人がいるっていうのがものすごく安心感を与えて、いろんなことを話しやすくなる」などとのべて、再考を促しました。

第4次定員管理計画で私は、「働く人は、正規職員であろうが会計年度任用職員であろうが、家庭を持ち、そしてそこの暮らしがあり、それを維持するために一定の収入がなければ人間らしい暮らしができない」とのべ、会計年度任用職員の実態について明らかにし、人間らしい家庭生活が成り立つ労働条件を求めました。



担当課長は、「この定員管理計画では、正規職員であろうが、会計年度職員であろうが、処遇改善は書いてこなかったし、対象外だ」と答えました。

昨年の4月1日現在、上越市の会計年度任用職員は1555人で、職員全体の47%を占めています。

パートの人の年収は約168万円、フルタイムの人でも約238万円です。これでは生活できません。



【ユキワリソウ】(再掲)キンポウゲ科の多年草。わが家の山で春一番に咲く野の花です。今年は白い花から咲き始めました。このほかピンク、薄紫色の花があります。毎年、この花を見ると冬の終わりを感じ、うれしくなります。花期は2月～4月。花言葉は、「自信」「はにかみ屋」「信頼」。写真は、吉川区にて2月17日に撮影しました。

市民の願い、いつか実現

新年度予算が20日、発表されました。一般会計予算の規模は約947億円です。

注目したのは、要援護世帯除雪費助成制度の改善、若者の奨学金の返還を支援する制度の創設、特別支援学校の児童生徒への通学費の支援、広島平和記念式典への中学生派遣(8人から24人へ)などです。

これらの多くは議会でも何回も取り上げ、論戦を繰り返してきただけにうれしく思います。

上越市の要援護世帯除雪費助成制度は、「多雪地域」と「その他区域」の区分を廃止、最高限度額を7万2100円に改善。

はしづめ法一の
活動レポート

No.2099 2023.2.26

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL http://www.hose1.jp/



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
←こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第七四六回

消えた文字

二月一四日の深夜でした。吉川区尾神(蛸場)出身のHさんから驚きのラインが入ったのは……。

Hさんからのラインでは、四二年前に亡くなった私の弟のことについて触れてありました。そのなかに、「(蛸場の中心部にある)クラブ横のケヤキに子ども頃の頃、マサルちゃんを書いた文字が少しずつ大きくなっていましたが、消えました。字が上手でした」と書いてあったのです。

この弟は四人兄弟の末っ子で、気持ちの優しい人間でした。最近になって、この弟は絵がとて上手であったことを知りまし。大潟区在住の弟が絵を保存して、それをを見せてもらったのです。絵は、わが家の牛舎の牛たちを描いたものですが、牛の特徴をキチンととらえた表現力は見事でした。おそらく、四人兄弟の中では一番上手いと思います。

その絵に続いて、今度は「木に彫った文字」があったとの情報です。「字が上手だった」とのことですが、いったいどんな文字だったのか。消えたとはいっても、何らかの跡形は残っているのではないか。そう思った私はじっとしてはいただけませんでした。

翌日は新潟市で議員研修会でしたが、予定よりも早く終わり、午後四時過ぎには帰宅しましたので、私は蛸場へと車を走らせました。

雪がちらつくなか、現地に到着して、クラブ脇の二本のケヤキを改めて見ると、太さといい、高さといい、思っていた以上に大きな木になっていました。じつに堂々とした、りっぱなケヤキです。

今年雪が少なく、クラブ周辺はカンジキなしで、長靴だけでも歩けます。ケヤキのそばまで行き、すぐに木の肌を見ました。弟が書いたという文字は消えたとしても、「それらしきもの」があるのではない

かと探したので。跡があるとなれば、地上から一桁ほどのところから二桁くらいの高さの間だろうと思ひ、隅から隅まで眺めまわしました。また、文字をナイフで彫ったとすれば、木肌に特別な盛り上がりがあっても不思議ではないと思ひ、触ってみました。しかし、人為的な跡は見つかりませんでした。

ただ、一か所気になった場所がありました。大きな釘が腐食して固まっているようなところ。釘の頭の直径は六、七ミリです。指でつまむと、とても硬く、金属かも知れないと思ひました。でも金槌で叩いたら、枝の根っこだと判明しました。

改めて木の肌を見ると、ところどころで皮がはがれています。カビのような斑点もあちこちに見られました。それだけでも、このケヤキが、雨や風雪に耐えてきたことがわかりました。幹に手を回して太さを確認しました。両手の先の間隔が三〇センチほどありましたので、幹の周囲は二桁前後あることがわかりました。

結局、この日は、「それらしきもの」を発見できませんでした。私はあきらめきれず、Hさんにラインを送り、弟が書いたという文字についてより詳しい情報を求めました。その結果、文字は漢字で一文字であったこと、彫刻刀で彫った筆文字のようなものであったこと、三年前くらいまでは確認できたことがわかりました。

数回にわたるHさんとのラインのやりとりでうれしかったのは、Hさんが弟の命日まで正確に覚えていてくれたことです。それにもう一つあります。今年の四月には帰省し、ケヤキのどこに弟が彫った文字があったのかを教えてくださいました。

もう感謝しかありません。四月まではもうひと月ちょっと。「消えた文字」の一部でも発見することができたらしいなど、もつわくわくしています。

新型コロナ対策、原発対策などを報告

先週の土曜日「議会報告とお楽しみの集い」で、私は、9回におたった新型コロナ対策の申入れと議会活動、原発再稼働を許さぬたたかいなどを報告しました。

集いには馬場ひでゆき弁護士も駆けつけ、介護、県政改革などについて熱弁をふるいました。



イラストの一番左は私。その右が馬場秀幸弁護士。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	2月15日(水)	2月22日(水)
上越南消防署	0.047	0.057
上越北消防署	0.047	0.037
新井消防署	0.053	0.050
頸北消防署	0.053	0.050
頸南消防署	0.063	0.060
東頸消防署	0.040	0.040
名立分遣所	0.050	0.057
高士分遣所	0.047	0.053



「議会報告とお楽しみの集い」の際、私のイラストの原画を1枚展示し、観ていただきました。「上手というより味があるね」などの声を寄せていただきました。有難うございました。

小さなイラスト展